

生活やものづくりの 学びネットワーク

2019年4月版

2021年8月一部改訂

生活やものづくりの学びネットワークが目ざすこと

子どもたちの人間性豊かな成長は、手と頭、そして五感を使って、ものや人とのかかわるという生活そのものを実践することによって培われます。それを通して子ども達は、自分に自信をもち、自分と他者、周囲の諸環境について考え、自立の基礎を身につけていきます。子どもの生活離れが進むなか、学校での学びが大切になっています。

また、科学が高度に発達した時代にあって、子どもたちはそれら諸科学を学ぶと同時に、自分自身や自分達の生活に関して十分に学ぶ必要があります。年齢、性別の違いや障がいの有無をこえて、全ての人々が安全・安心に暮らせる家族・地域・社会のあり方や、環境に負担をかけない消費やライフスタイル、新しい技術や情報の適切な活用等についての学びが必要です。

これからの時代を担う子どもたちにとって、これらの学びで獲得する力はまさに生きる力の中核に位置するものといえますが、残念ながら、現実の学校教育のカリキュラムにおいて、このことは十分には反映されていません。

これらの学びを現実の生活に即して担ってきたのは、「家庭」「技術・家庭」の教科ですが、これらの教科の授業総時間数は、いわゆる受験重視の教育環境の中で、小・中・高等学校を通じて、最も少なくなっています。

私たちは、2010年のネットワーク設立以来、子どもたちが生活やものづくりの学びを通して自分や生活をみる目を養い社会を担う力を培うことを願い、そのための教育の充実に向け、賛同する個人や団体で力を合わせて取り組んできました。

教育関係者や市民の多くの皆さんがこのネットワークに参加し、活動を共に推進していただきますことを願っています。

<目次>

P2……………**今、子どもに必要な学びとは？**

P3～4 ……**外国ではどう学んでいるの？**

P5……………**家庭科や技術・家庭科の免許を持った教員が配置されていますか？**

P6……………**授業に必要な設備・教材の財源はどうなっていますか？**

P7～8 ……**家庭科、技術・家庭科の授業時数や内容はどう変化してきたのですか？**

P9～14 ……**家庭科や技術・家庭科はどんなことを学ぶのでしょうか？**
小学校
中学校
高等学校

P15……………**生活やものづくりの学びネットワークの活動とは？**

P17～20…**小学校・中学校教材整備指針ダイジェスト版**

P20……………**生活やものづくりの学びネットワークで開催してきた企画と学習会**

Q. 今、子どもに必要な学びとは？

生活体験の不足で 子どもたちの「生活技術力」が 低下しています。

図1 子どもたちの生活技能(身に付いていないもの、上位4項目)

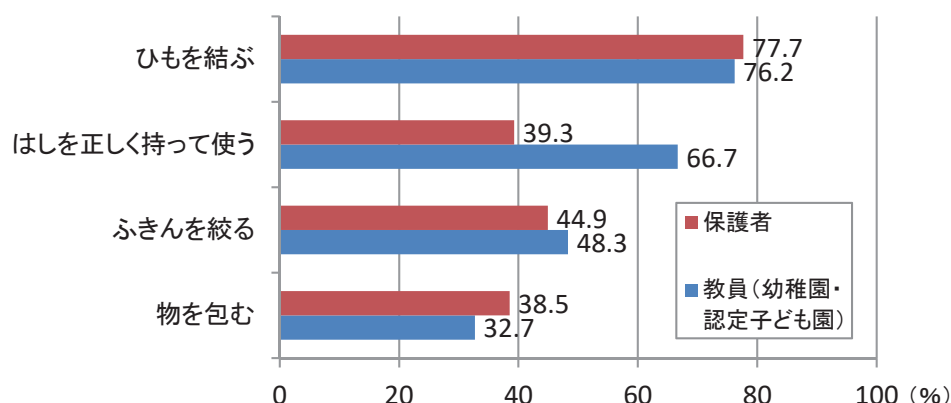
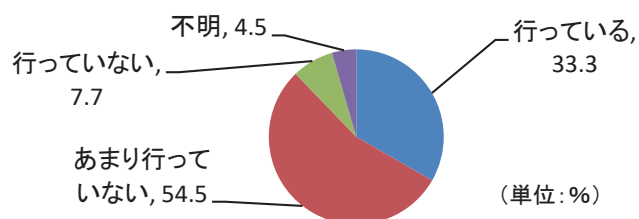


図2 家庭で手先を使った遊びを意識して行っていますか？



出典: 全国国公立幼稚園・子ども園長会『遊びを通して子どもの生活体験を豊かにする調査研究(平成27年度調査報告書)』(<https://www.kokkoyo.com/pdf/b-no027.pdf>)

ひもを結ぶ、箸を使う、ふきんを絞る等の生活技術は、生活を支える大事な能力です。これらの多くは手を使用します。手を動かすと同時に、私たちは手を通じて、熱い、冷たいなどの温度感覚や、ざらざらしている、つるつるしているなどの触覚などのさまざまな感覚を感じています。しかし、近年、手を使った生活技術を身につけていない子どもたちが多くなってきていることが懸念されています。

全国の国公立幼稚園・子ども園を対象とした調査(調査時期: 2015年10~11月、対象者: 保護者2129名、教諭665名)では、ひも結びや箸を正しく使うことのできない子ども割合の高さが指摘されました。家庭で手先を使った遊びを行っていないことも多く、その理由として「我が子への教え方がわからない」との回答が最も多かったそうです。

生活体験の不足は、運動能力と同時に感覚能力の成長も奪っている可能性があります。今こそ、家庭・学校・地域が連携して、子どもの生活技術力を育てる学びを保障することが必要です。

よりよく生きるためには 「生活技術力を育て学びとること」が必要です。



Q. 外国ではどう学んでいるの？

生活やものづくりを大切に する北欧の教育

1 少人数学級で生活の自立と楽しさを学ぶ

北欧のスウェーデン、フィンランド、ノルウェー、デンマークでは、生活やものづくりに関わる学習を大切にしています。

まず家庭科(第5～9学年)では食生活の学習を中心に消費者や家庭経済、持続可能な環境などについて学びます。なかでも調理実習はひとりひとりが確実にスキルを身につけることができるよう、配慮されています。

例えば、クラス(25人程度)を半分に分け、2人の教師が、2つの調理室で同時に開講し、ひとつの調理台は、生徒2～3人で使います。授業時間は国や学校により異なりますが、多くは90～120分ほどです。子どもたちは男女の別なく、準備から調理、片づけ、レポート作成まで、ゆったりとした時間の中で楽しみながら実習し、食事をつくる力、食生活を営む力をつけていきます。(写真1、2、3)

また、スロイド(工芸)は第1学年から第9学年(中学3年)まで必修で学びます。木工・金工と裁縫・編み物・織物の教室が同時開講し、子どもたちはどちらかを選択します。授業時間は学校により異なりますがやはり90～120分ほどです。

ひとクラスの人数は、平均12～15人ほどで、裁縫には1人1台のミシンが備えられ、布地、糸などの材料や道具は学校で用意します。子どもたちは自分の好みと技量にあわせて自由進形で作品を作っていきます。先生は個別に相談にのり援助します。(写真4は織機と製作中の作品、写真5は木工の生徒の作品、)

北欧は長く暗い冬の季節に、家庭で使うマットや小物を手作りする豊かな生活文化があり、学校教育の中でそれを学ぶ機会が保障されています。



1



2



3

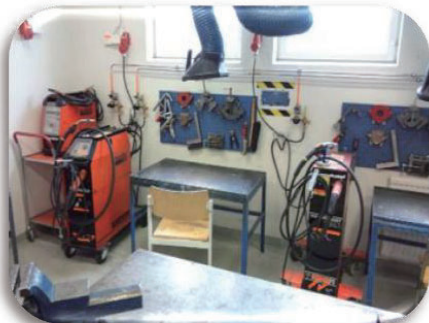


4



5

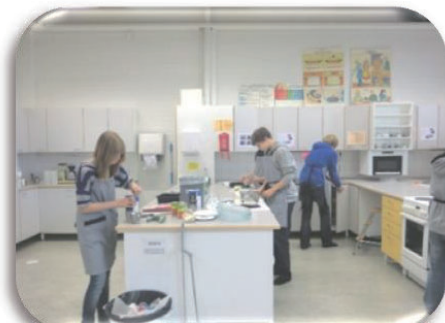
「生活やものづくりの学び」の充実には少人数指導が必要です



6



7



8

充実した施設や設備(工芸および家庭科)

北欧の工芸室や家庭科の実習室の施設や設備はとても充実しています。フィンランドの義務教育学校(小・中学校)には溶接や塗装機、木材加工や金属加工のための設備がとてもよく整備されています。家庭科室も同様に非常にきれいで近代的な設備が整えられています。(写真6、7は工芸室の溶接機と自動鋸機、写真8は調理実習)

スウェーデンでも同様です。(写真9は燭台作り、写真10は白樺の幹をくりぬいて容器作り、写真11底板は先生が調整、写真12織物、写真13草木で染色も、いずれもスロイド)

また、各種の材料もすべて学校に用意されており、もちろん材料費はかかりません。手の巧緻性を育むこと、道具や機械の使用に慣れること。そして将来の生活に向けて準備することは社会に出ていくための準備となるものです。



9



10

北欧の『徒弟的修行』による職業教育・訓練の導入

また、北欧諸国では 1990 年代に入ってから「徒弟的修行」(アパレンティスシップ)が職業教育・訓練の中に積極的に導入されるようになりました。(写真15は機械工の修行生、フィンランド)

スウェーデンのヨーテボリとウデバラの職業高校生が職業現場で生き生きと目を輝かせて仕事に励んでいる様子を目にしたとき、実際の職業現場が持つ教育的な役割は物凄いものだ実感しました。

ノルウェーでは2+2と言って、高校の最初の2年間は学校で普通教育と職業準備教育を受け、後の2年間は職業現場で「徒弟的修行」を行います。「修行中」ですが、手当が支払われます(スウェーデンの場合は手当は原則ゼロ、但し近年、試行的に手当てが支払われるケースが出てきたようです)。(写真14は大工の修行生、ノルウェー)

職業能力を育成することは若者に対する 社会保障の大きな課題です。生活やものづくりの学びを通して、若者が職業能力を身に付けることは社会生活を送る上での保障につながります。



11



12



15



14



13

Q. 家庭科や技術・家庭科の免許を持った教員が配置されていますか？

各学校に必ず免許を持った教員が配置されているとは言えません。

教科と教科指導教員について

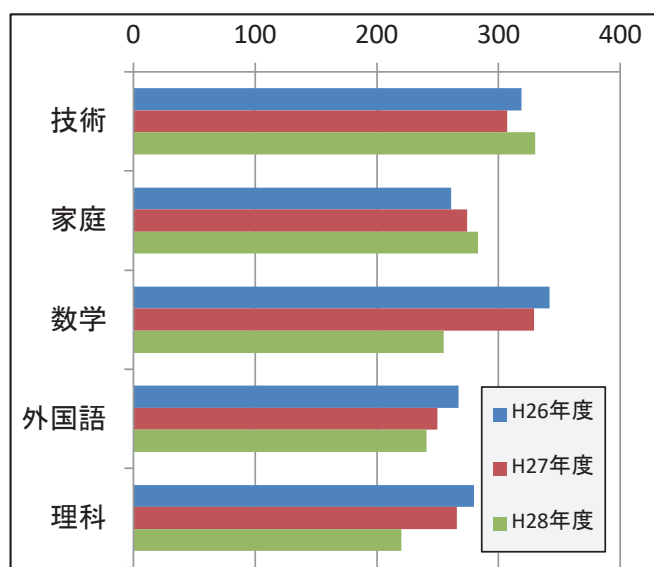
教員は、教育職員免許法により「授与される各相当の免許状を有する者でなければならない」（第3条第1項）とされています。しかし、「ある教科の教授を担当すべき教員を採用することができないと認めるとき」に、臨時免許状や免許外教科担任が許可されます。

教科別に免許外教科担任の許可件数をみると（平成28年度）、中学校では家庭2181件が最も多く、次に技術が2146件、美術が938件でした。実技教科の割合が、80%を占めました（文部科学省「第1回免許外教科担任制度の在り方に関する研究協力者会議 免許制度に関する基礎資料」平成30年1月より）。

臨時免許状授与件数をみると（平成28年度）、中学校では、技術が最も多く330件、次に家庭の283件でした。高等学校の普通教科で最も多いのは、外国語337件、次いで情報255件、家庭238件でした（文部科学省「平成28年度教員免許状授与件数等調査」より）。

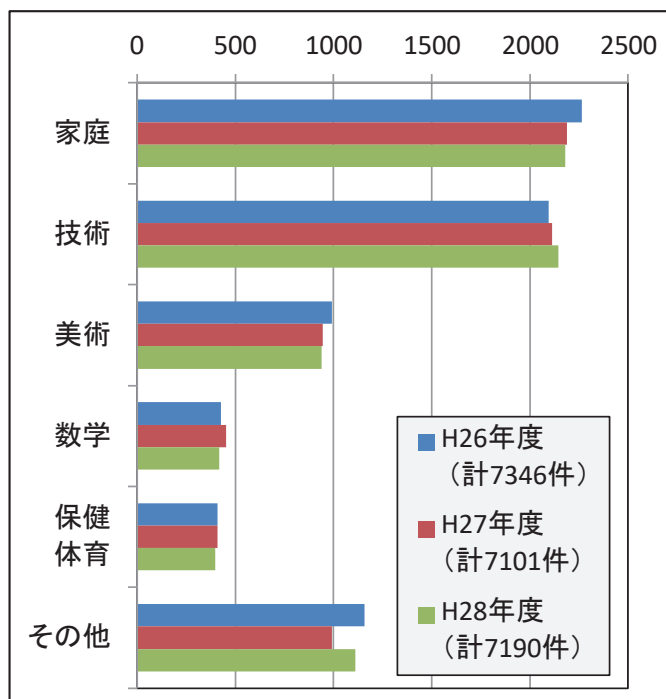
現在の学校教育は、少子化による学校規模縮小のため専任教員数が減り、家庭科や技術・家庭科、美術、情報といった「生活やものづくりの学び」が軽視されてしまっています。

教科別臨時免許状授与件数（中学校）



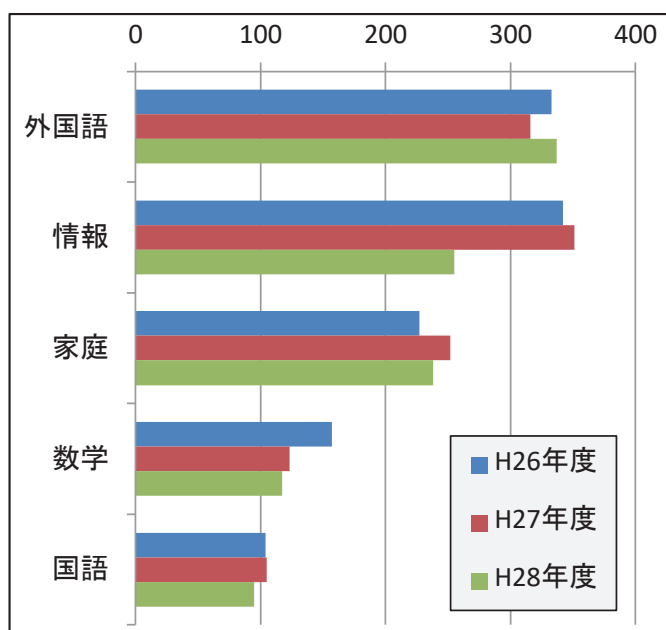
（文部科学省「平成28年度教員免許状授与件数等調査」、平成28年度の授与件数が多い順に5教科分を示した）

免許外教科担任の許可件数（中学校、教科別）



（文部科学省「第1回免許外教科担任制度の在り方に関する研究協力者会議 免許制度に関する基礎資料」平成30年1月）

教科別臨時免許状授与件数（高等学校）



（文部科学省「平成28年度教員免許状授与件数等調査」、高等学校普通教科のうち平成28年度の授与件数が多い順に5教科分を示した）

中学校の技術・家庭科では、各教科の免許を持った教員を1校に各1名以上配置してはじめて充実した授業ができるのです。

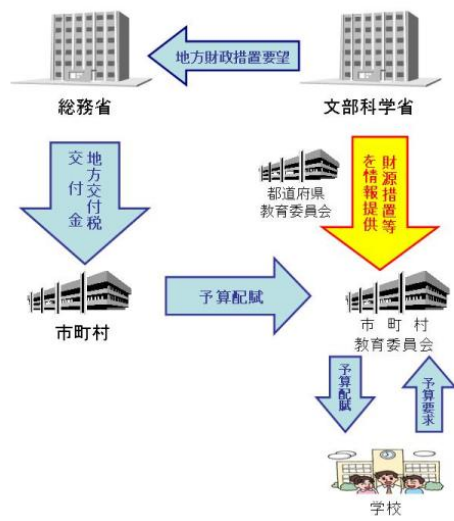
Q. 授業に必要な設備・教材の財源はどうなっていますか？

地方交付税による財源措置がなされ、教材整備のための目安が示されています。

教材整備のための経費は、現在、地方交付税による財源措置がなされています。文部科学省では、教材を整備する学校や地方公共団体の参考となるよう、学習指導要領の改訂を踏まえた教材の整備基準を公表しています。

平成23年度
学校あたり、学年あたり、学級あたり、グループあたりの整備の目安を教材毎に例示した「教材整備指針」が策定されたので、各学校や地方公共団体は、この措置を活用し、計画的に教材整備が行われています。

平成24～令和3年度
「義務教育諸学校における新たな教材整備計画」に単年度措置額 約800億円(10ヵ年総額 約8,000億円)の地方交付税措置がされています(小学校:約500億円、中学校:約260億円、特別支援学校:約40億円)。



中学校教材整備指針「技術・家庭科」(平成23年文部科学省)

技術分野

機能別分類		例示品名
発表・表示用教材		黒板 教授用掛図 屋内配線模型展開板 コンピュータシステム説明板 情報通信ネットワーク説明版 材料標本 エネルギー変換機器模型 教師用工具一式
道具・実習用具教材	材料と加工	整理用教材(集塵機、工具整理 箱、部品整理箱) 保護めがね 製図用ソフト 製図板 製図器 加工用工具(木材・金属等の材料 に応じた加工用工具(ノコギリ、切断、穴あけ、加熱、組立・接合、塗装など)など) 小型加工機器(ベルトサンダー、 卓上ボール盤、卓上旋盤、卓上帯のこ盤、電動ドライバーなど) 固定具(万力、L型クランプなど) 測定具(ノギスなど)
	エネルギー変換	整備用工具(電気関係、機械関係など) 点検用測定機器(回路計、マルチメータなど) 点検整備用機器(電気機器、自転車など)
	生物育成	栽培関係用具(耕起用具、かん水用具、簡易養液栽培用具など) 飼育関係用具(水槽、管理用具など)
	情報	デジタル作品学習用機器(アニメーション作成ソフトウェア、デジタルカメラ、USBカメラ、デジタルビデオカメラなど) 計測・制御学習用機器(インターフェース、各種センサー、制御用 ロボット、プログラミングソフトウェアなど)

家庭分野

機能別分類		例示品名
発表・表示用教材		黒板 教授用掛図 標本 模型 教師用教具 カード教材(食品カード、献立 カードなど)
道具・実習用具教材	衣生活関連教材	電気アイロン アイロン台 噴霧器 電気洗濯機 手洗い関係用具(洗濯板、たらいなど) ミシン及び付属品 裁縫板 裁縫用具セット 大鏡 きもの 帯
	食生活関連教材	コンロ 炊事用具セット 鍋類(両手鍋、片手鍋、フライパンなど) 容器類(しょうゆ・ソース入れ、 油入れなど) 食器類(和食器、洋食器、はし、 スプーン、フォークなど) 調理用生ゴミ処理機 電子オーブンレンジ ホットプレート 電気冷凍冷蔵庫 エアタオル IHクッキングヒーター 電気炊飯器 上皿自動秤 計量器 食品成分検査用具(塩分計、糖度計など) 整理用教材(電気掃除機、清掃用 具、まな板包丁減菌庫など)
実験観察・体験用教材		家庭生活ロールプレイング用具一式 保育人形 遊具 高齢者疑似体験セット 住生活関連教材 騒音計 ガス検知管、採取器 照度計 温湿度計 紫外線強度計

学びの質を高めるために、各教科の設備・教材を整備できる教員が必要です。

Q. 家庭科、技術・家庭科の授業時数や内容はどう変化して 小・中・高等学校の家庭科や技術・家庭科は、1990年代に男女必修教

特徴	1947年試案～	1958・1960年告示	1968・1970年告示	1977・1978年告示
	戦後における教育の再建	教育課程の基準の性格（告示形式）	教育内容の「現代化」	「ゆとりと充実」 授業時数の削減①
小学校	1947年試案（新制小学校） 教科「家庭」新設 必修 5・6年：各105時間 内容： 男女 ：家族、家庭、住、 男子 ：家庭工作、 女子 ：料理、裁縫 1956年 教科「家庭」必修 5・6年：各70時間 内容： 家族関係、生活管理、被服、食物、 住居の5領域	1958年10月告示 （1961～70年度実施） 教科「家庭」必修 5年：70時間 6年：70時間 内容： A被服、B食物、Cすまい、 D家庭の4領域 1949年：小学校家庭科の廃止と存置議論 小学校家庭科は、戦後から現在まで 男女必修	1968年7月告示 （1971～79年度実施） 教科「家庭」必修 5年：70時間 6年：70時間 内容： A被服、B食物、Cすまい、 D家庭の4領域	1977年7月告示 （1980～91年度実施） 教科「家庭」必修 5年：70時間 6年：70時間 内容： A被服、B食物、C住居 と家族の3領域 いわゆる「相互乗り入れ」 授業時数削減 ※1・2年
中学校	1947年（新制中学校発足） 職業（農、商、水、工、家） 1951年 「職業・家庭」：4分類 1956年 教科「職業・家庭」必修 1年：105～140時間 2年：105～140時間 3年：105～140時間 内容： 1～6群に整理統合 選択教科：各学年70時間	1958年10月告示 （1962～71年度実施） 教科「技術・家庭」必修 1年：105時間 2年：105時間 3年：105時間 内容： 男子向きと女子向きで構成 履修領域： 男女で異なる 選択教科：各学年70時間	1969年4月告示 （1972～80年度実施） 教科「技術・家庭」必修 1年：105時間 2年：105時間 3年：105時間 内容： 男子向きと女子向きで構成 履修領域： 男女で異なる 選択教科： 1・2年：35時間 3年：70時間	1977年7月告示 （1981～92年度実施） 教科「技術・家庭」必修 1年：70時間 2年：70時間 3年：105時間 内容： 技術系列9と家庭系列8領域 履修方法： 男子 は技術系列5以上と家庭系列1以上の計7領域以上。 女子 は家庭系列5と技術系列1以上の7領域以上履修。 選択教科： 3年のみ35時間
高等学校	1948年（新制高等学校発足） 実業（農、工、商、水、家）の1分野 「家庭」「一般家庭」14単位1・2年（各7単位）ほか7科目 1949年 職業教科「家庭技芸」創設 1951年 教科「家庭」 「一般家庭」14単位ほか、家族、保育、家庭経理、食物、被服、家庭技芸の科目 1956年（56～62年度実施） 教科「家庭」（「家庭技芸」は統合） 「家庭一般」4単位 専門科目19科目	1960年10月告示 （1963～72年度学年進行実施） 教科「家庭」 「家庭一般」：普通科女子必修 4単位 専門科目22科目 1951年産業教育振興法制定により、翌年設備規準が作成され、ミシンや改善台所、家庭経営室などが整備	1970年10月告示 （1973～81年度学年進行実施） 教科「家庭」 「家庭一般」：すべて女子必修 4単位 専門科目24科目	1978年8月告示 （1982～93年度学年進行実施） 教科「家庭」 「家庭一般」：すべて女子必修 4単位 専門科目19科目

きたのですか？

科となりましたが、2000年代に**授業時数**が**大幅削減**されました。

1989年告示	1998・1999年告示	2008・2009年告示	2017・2018年告示
「新しい学力観」 いわゆる「女子差別撤 廃条約」への対応	「生きる力の育成」 完全学校週五日制実施 授業時数・教育内容削減②	確かな学力の確立 指導内容の充実	「資質・能力の3つの 柱」「主体的・対話的で 深い学びの実現」
1989年3月告示 (1992～2001年度実施) 教科「家庭」必修 5年：70時間 6年：70時間 内容： A 被服 B 食物 C 家族の生活と住居	1998年12月告示 (2002～2010年度実施) 教科「家庭」必修 5年：60時間 6年：55時間 内容： (1)家庭生活と家族、(2)衣 服への関心、(3)生活に役 立つ物の製作、(4)食事へ の関心、(5)簡単な調理、 (6)住まい方への関心、(7) 物や金銭の使い方と買物、 (8)家庭生活の工夫	2008年3月告示 (2011～2019年度実施) 教科「家庭」必修 5年：60時間 6年：55時間 内容： A 家庭生活と家族 B 日常の食事と調理の 基礎 C 快適な衣服と住まい D 身近な消費生活と環境	2017年3月告示 (2020年度実施) 教科「家庭」必修 5年：60時間 6年：55時間 内容： A 家族・家庭生活 B 衣食住の生活 C 消費生活・環境
1989年3月告示 (1993～2001年度実施) 教科「技術・家庭」必修 1年：70時間 2年：70時間 3年：70～105時間 内容： 技術6領域、家庭5領域 で 構成。全員必修の4領域と 他の7領域から3領域以上 を選択履修 選択教科：技術・家庭2・3 年（35時間）	1998年12月告示 (2002～2011年度実施) 教科「技術・家庭」必修 1年：70時間 2年：70時間 3年：35時間 内容： 技術分野 (A技術とものづ くり、B情報とコンピュー タ)と 家庭分野 (A生活の自 立と衣食住、B家族と家庭 生活)、必修と選択履修の 項目で構成 選択教科：全教科から選択	2008年告示 (2012～2020年度実施) 教科「技術・家庭」必修 1年：70時間 2年：70時間 3年：35時間 内容： 技術分野 (A材料と加工に 関する技術、Bエネルギー 変換の技術、C生物育成に 関する技術、D情報に関す る技術) 家庭分野 (A 家族・家庭 と子どもの成長、B食生活 と自立、C衣生活・住生活 と自立、D身近な消費生 活と環境) 選択教科： なし	2017年3月告示 (2021年度実施) 教科「技術・家庭」必修 1年：70時間 2年：70時間 3年：35時間 内容： 技術分野 (A材料と加工の 技術、B生物育成の技術、 Cエネルギー変換の技術、 D情報の技術) 家庭分野 (A家族・家庭生 活、B衣食住の生活、C消 費生活・環境)
1987年教課審答申 「履修領域に 男女の 差異 を設けない」	授業時数の大 幅削減 ※3年		選択教科がなくなり、 授業時数減
1989年3月告示 (1994～2002年度 学年進行実施) 教科「家庭」 「家庭一般」「生活技術」 「生活一般」(各4単位) から1科目選択必修 (男女必修履修) 専門科目23科目	1999年3月告示 (2003～2012年度 年次進行実施) 普通教科「家庭」 「家庭基礎」(2単位) 「家庭総合」(4単位) 「生活技術」(4単位) から1科目選択必修 専門教科「家庭」19科目	2009年3月告示 (2013～2021年度 年次進行実施) 共通教科「家庭」 「家庭基礎」(2単位) 「家庭総合」(4単位) 「生活デザイン」(4単位) から1科目選択必修 専門教科「家庭」20科目	2018年3月告示 (2022年度～年次進行実施) 共通教科「家庭」 「家庭基礎」(2単位) 「家庭総合」(4単位) から1科目選択必修 専門教科「家庭」21科目
女子差別撤廃条約批准、 臨教審答申等とのかか わりで、 男女必修履修 へ	4単位だけでなく 2単位科目設置	2単位科目 選択校の増加	小・中・高等学校の 学習内容の系統化

Q. 家庭科や技術・家庭科はどんなことを学ぶのでしょうか？

小学校

<小学校5、6年「家庭」の内容> 平成29(2017)年告示

A 家族・家庭生活

- ・自分の成長と家族・家庭生活
- ・家庭生活と仕事
- ・家族や地域の人々との関わり
- ・家族・家庭生活についての課題と実践

B 衣食住の生活

- ・食事の役割、調理の基礎、栄養を考えた食事
- ・衣服の着用と手入れ、布を用いた製作
- ・快適な住まい方

C 消費生活・環境

- ・物や金銭の使い方と買物
- ・環境に配慮した生活

ひとりで調理



おいしい
野菜炒めを
作ります！

力を合わせて製作



消費生活・環境



ごみ処理の
費用を考え
よう

世界に一つ！
クラス全員で
作ったマスコット
カレンダー

<小学校・家庭科> みんなでつくる、つくって使う そろいのはっぴでソーラン節

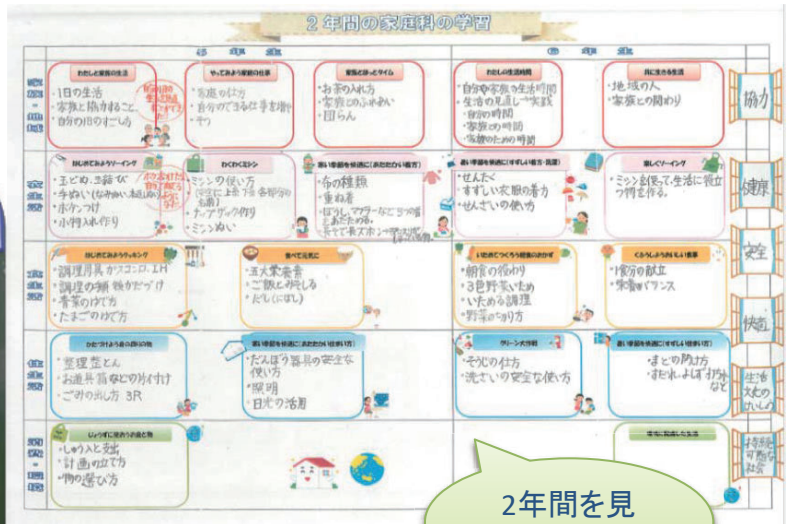
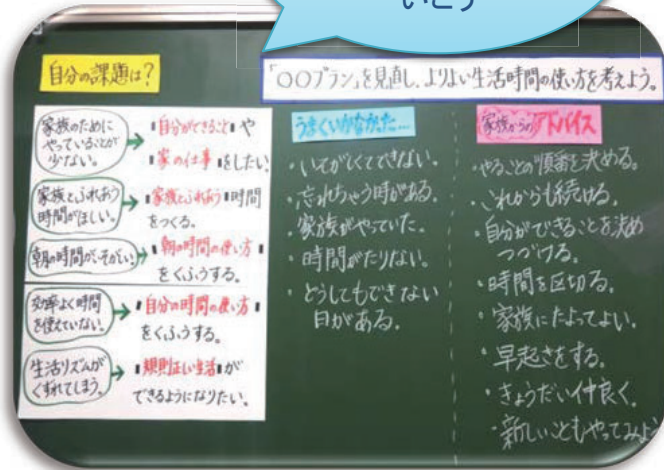
担任が受け持った5～6年生の家庭科の授業。子どもの疑問「人は衣服をなぜ着るの？」を探るなかで、糸と布、布を縫うという学びにつながりました。

学んだ縫う技術を「つかって、楽しい生活に生かしていこう」と、5年では夏の宿泊行事に使う下着入れから教室の机に下げてつかう辞書入れ（裏布つき）づくり、そして6年1学期の体育祭でのソーラン節の衣装づくりにまで発展させました。

はっぴを翻しながら踊るソーラン節に親たちからのひときわ大きな拍手は子どもたちに自信を与えました。

家族・家庭生活

自らの生活時間を見直し、課題を見付け、解決していこう

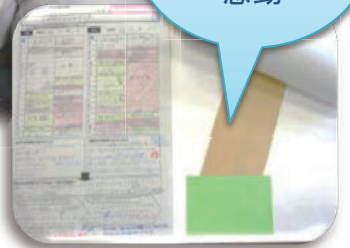


2年間を見通した学び



対話的な活動で深まる学び

家族からの手紙に感動



家庭科室の工夫

いつも確認！
五大栄養素



おいしく作るためにはどんな切り方がいいかな



中学校【技術分野】

＜中学校技術・家庭科【技術分野】の内容＞

平成29（2017）年告示

- | | |
|--------------|-----------|
| A 材料と加工の技術 | B 生物育成の技術 |
| C エネルギー変換の技術 | D 情報の技術 |

育てて、食べる

発芽から実を結ぶまで、世話をしながら考えることが生物育成の授業です。都市の農園がない中学では、大きな袋に土を入れて栽培します。世話をしながら考えることが生物育成の授業です。1本の大根からも学ぶことは多い。育て、料理をして、人々に食べてもらう喜び、食料資源を大切にすることや家族の一員として働くことの大切さも学びます。自然の中で生き物を育てる農の経験は、食生活を豊かにして「生きる力」になります。これが「農の教育力」です。



種もみから自分たちで育てました！



生育状況をスケッチして観察するよ

生徒の感想より

中学校に入りバケツ稲をしました。種まきから追肥、水の管理、スズメ対策のネットがけ、稲刈り脱穀、モミすり、精米まで全部自分たちでしました。

生き物の世話をよくすると、よく育ってくれます。また、パイナップルの挿し木もしました。ほんとに育つのか心配です。また、サトウキビを収穫してしばっています。煮詰めて砂糖にして サーターアンダギーにします。技術の授業は種や苗を土にまいたり植えたりして育てます。そして収穫して食べ物や美味しいお菓子ができるので面白いです。自分たちで作りたいものを決めて、すべての作業をするのでやりがいがあります。

木を削る・金属を加工する

木材を削り、磨き、金属をとかし鋳型に入れて加工する。道具を使ってモノを加工する。素材がどんどん変わっていく。楽しい実習を通して、木材の性質や金属の性質が分かってきます。人の働きかけでいろいろなものに変化させる楽しさは思いのほか、充実感が得られるものです。



ドリルを使うの初めて

技術は、新しい発見が面白いね！



箸を作るよ



集中

【家庭分野】

●衣生活

1枚の手ぬぐいから生活に役立つ手提げ袋を作りました。お弁当箱や下着を入れて使ってみて、使いやすかったか、縫い方はよかったかなどを確かめました。

●食生活

バターや湯葉など身近な加工食品は、何からどのようにつくられているのか調べました。豆乳から湯葉を実際につくって食べてみました。

●住生活

今、生活をしている中で、不便だな、困るなと思うことを出し合い、班ごとにテーマを決めて調べました。テーマには「騒音問題」「ゴミ問題」「街灯の明るさ」「窓の役割」「近所のトラブル」などがあがりました。

●消費生活・環境

せっけんを手作りして、合成洗剤と何がどのように違うのか調べました。環境にやさしく、地球を汚さないためにはどうすればよいのか意見を出しあいました。



< 中学校技術・家庭科 【家庭分野】の内容 > 平成29（2017）年告示

- A 家族・家庭生活
 - ・自分の成長と家族・家庭生活
 - ・幼児の生活と家族
 - ・家族・家庭や地域との関わり
 - ・家族・家庭生活についての課題と実践
- B 衣食住の生活
 - ・食事の役割と中学生の栄養の特徴
 - ・中学生に必要な栄養を満たす食事
 - ・日常食の調理と地域の食文化
 - ・衣服の選択と手入れ
 - ・生活を豊かにするための布を用いた製作
 - ・住居の機能と安全な住まい方
 - ・衣食住の生活についての課題と実践
- C 消費生活・環境
 - ・金銭の管理と購入
 - ・消費者の権利と責任
 - ・消費生活・環境についての課題と実践



高等学校

<高校「家庭基礎」の内容> 平成30(2018)年告示

- A 人の一生と家族・家庭及び福祉
 - ・生涯の生活設計
 - ・青年期の自立と家族・家庭
 - ・子供の生活と保育
 - ・高齢期の生活と福祉
 - ・共生社会と福祉
- B 衣食住の生活の自立と設計
 - ・食生活と健康
 - ・衣生活と健康
 - ・住生活と住環境
- C 持続可能な消費生活・環境
 - ・生活における経済の計画
 - ・消費行動と意思決定
 - ・持続可能なライフスタイルと環境
- D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

家庭科の学びで

【生活と社会を見直す視点が育ちます】

家庭科というと、調理実習を思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。調理実習は料理を作るだけではなく、実習を通じていろいろな視点から現代の食生活を見直して欲しいと願い、授業を組み立てています。



清涼飲料水の糖度を糖度計で計測。その多さにびっくり！

海外からのお客様と一緒に和食の調理



家庭科は生活を見直す視点を育てます。

家庭科の学びがきっかけとなって、生徒自らが自分の生活と社会のさまざまな課題に気付いて欲しいと願っています。（ある教師の思いから）

【将来を考える教科だ！】

- ・生活設計の授業で、人生すごろくを作りました。私は夢も目標も持っていましたが、リスクは考えていなかったのので、乗り越え方を考えることができました。
- ・家庭科は素晴らしい！人生を見直すきっかけになりました。



（高校生の感想から）

乳児との
触れ合い体験
あかちゃんって
あたたかい！

保育所
訪問

対話的な活動
で学びを深め
ます

シルバー
体験

高等学校家庭科の特徴的な学び

ホームプロジェクトと 学校家庭クラブ活動

戦後創設された「家庭科」は、「家庭や地域の生活課題を主体的に解決して、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる」こと、すなわち問題解決能力を育てることをねらいとし、アメリカのプロジェクメソッドを参考に導入されました。

1949年刊行の学習指導要領家庭科編で、学習活動としてホームプロジェクトが示されました。1970年告示学習指導要領から、「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」が内容として示されています。

ホームプロジェクトは、個人の実践活動で、学校家庭クラブ活動は、グループや学校あげての活動として取り組まれています。この学習こそ、新学習指導要領で求められる「主体的・対話的で深い学び」の実現であると言えます。



香川県立石田高等学校家庭クラブ
「わくわくえほんひろば
～読み聞かせ活動から学んだこと～」

奈良県立桜井高等学校家庭クラブ
「全国交通安全運動啓発活動
桜井市の方々と一緒に啓発活動」



ホームプロジェクト 富山県 高校3年生 Nさん
「我が家の食卓を創る！～おいしくパパッと簡単・節約ポリ袋調理～」

ポリ袋調理導入による母の負担軽減は？

(3) 母の買い物・炊事にかかる労力

- ・ ほぼ毎日買い物
→ 週末にまとめ買い・下準備
- ・ 平日：平均 **3時間53分/日**
→ **3時間/日**
- ・ 夕食時：平均 **1時間37分/日**
→ **1時間6分/日**

災害用非常食 1人1日あたり **約1300円以上** 必要

28.8.21 町内の夏祭りにて

品名	単価
168g	¥378
150g	¥386
100g	¥232
180g	¥386
1食	¥232
100g	¥260

Q. 生活やものづくりの学びネットワークの活動とは？

○秋のシンポジウム・講演会

「学習指導要領と『家庭』『技術・家庭』2017



「新学習指導要領とこれからの高校『家庭』の展開」2018



○春の学習交流会

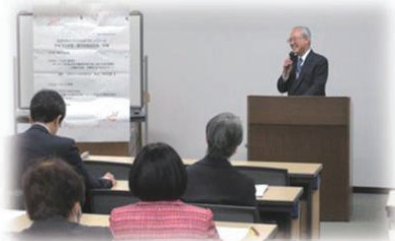
「綿から糸を紡ぐ」2015



「現代っ子不器用の証明」2018



「18歳成年消費者を取り巻く取引社会の様相」2019



- ロビー活動、要望書の提出
- ネットワークニュースの発行
- 各地区会の活動

「情報交換会」2019



りんごジャムを作ろう(2014福島)



高齢者との手芸交流(2015岐阜)



布を使った小物作り(2018東京)



茜染め体験(2016秋田)



被服製作の基礎(2017山形)



男性の家事・育児を考える(2018千葉)

私たちはよりよく生きるために必要な知識や技術を学びたいと願う子どもたちを育てたいと考えています。

生活力は繰り返し学ぶことで身につけていくものです。

子どもたちは、生活やものづくりについて、小・中・高等学校の家庭科や技術・家庭科の授業で、様々な体験を通して楽しく学んでいます。

しかし、今の時間数では、知識や技術を身につけて定着させるのは極めて難しく、十分な時間と教育環境が必要です。

子どもたちにとって「生活やものづくり」の授業が、より充実した価値のある学びになることが私たちの願いです。



生活やものづくりの学びネットワーク

【呼びかけ団体】(2011年10月時点)

日本家庭科教育学会、日本産業技術教育学会、(一社)日本家政学会、(一社)日本家政学会家政教育部会、日本消費者教育学会、全国家庭科教育協会、NPO法人家庭科教育研究者連盟、産業教育研究連盟、(一社)日本調理科学会、大学家庭科教育研究会、(一社)日本家政学会生活経営学部会、日本私立小学校連合会家庭科部会

【呼びかけ人】(*所属・肩書は、2011年10月時点)

秋田喜代美(東京大学教授)、臼井嘉一(福島大学名誉教授)、梅原利夫(和光大学教授)、大竹 美登利(東京学芸大学教授)、貝ノ瀬ひろ子(東京都立小学校家庭科研究会会長)、垣内国光(明星大学教授)、金田利子(静岡大学名誉教授)、小玉重夫(東京大学教授)、小玉亮子(お茶の水女子大学准教授)、塩入睦夫(元東京都中央区立日本橋中学校校長)、汐見稔幸(白梅学園大学学長)、柴田義松(東京大学名誉教授)、須藤敏昭(大東文化大学教授)、中間美砂子(元日本家庭科教育学会会長)、西村弘子(田園調布学園中・高等部校長)、西野博之(NPO法人フリースペースたまりば理事長)、廣岡守穂(中央大学教授)、福田公子(広島大学名誉教授)、船橋一男(埼玉大学教授)、本田由紀(東京大学教授)、牧野カツコ(お茶の水女子大学名誉教授)、村瀬幸浩(一橋大学講師)、森 敏昭(広島大学大学院教授)

2010年9月設立 世話人代表 鶴田敦子

2019年4月現在 世話人代表 荒井紀子

パンフレット作成委員会2019:荒井紀子、岩崎香織、河野公子、志村結美、知識明子、沼口博

挿絵:大内莉乃

構成・冊子デザイン:岩崎香織、末藤麻紀

詳細につきましては、文部科学省ホームページ「学校教材の整備」をご覧ください。

小学校・中学校教材整備指針ダイジェスト版（令和元年一部改訂）

小学校教材整備指針(家庭)

機能別分類	整理番号	例示品名	新規
発表・表示用教材	176	黒板（栄養黒板、献立黒板など）	
	177	教授用掛図（家族・家庭生活、衣・食（五大栄養素、食品の主な働きなど）・住の生活や文化、消費生活・環境に関するもの）など	△
	178	標本（基礎縫い、布地など）	
	179	模型（食品、献立、住居など）	
	180	教師用教具（裁縫用具、栄養指導用具など）	
道具・実習用具教材 （衣生活関連教材） （食生活関連教材）	181	カード教材（食品カード、献立カードなど）	
	182	電気アイロン	
	183	アイロン台	
	184	噴霧器	
	185	電気洗濯機	
	186	手洗い関係用具（洗濯板、たらいなど）	
	187	ミシン及び付属品	
	188	裁縫板	
	189	裁縫用具セット	
	190	大鏡	
	191	コンロ	
	192	炊事用具セット	
	193	鍋類（両手鍋、片手鍋、フライパンなど）	
	194	容器類（しょうゆ・ソース入れ、油入れなど）	
	195	食器類（和食器、洋食器、はし、スプーン、フォークなど）	
	196	調理用生ゴミ処理機	
	197	電子オーブンレンジ	
	198	ホットプレート	
	199	電気冷凍冷蔵庫	
	200	エアタオル	
	201	I H クッキングヒーター	
	202	電気炊飯器	
	203	上皿自動秤	
	204	計量器	
	205	食品成分検査用具（塩分計、糖度計など）	
	206	整理用教材（電気掃除機、清掃用具、まな板包丁滅菌庫など）	
実験観察・体験用教材 （住生活関連教材）	207	照度計	
	208	温湿度計	
	209	簡易騒音計	○

※ 新規に例示した教材に「○」印を、例示内容を一部見直した教材に「△」印を付している

中学校教材整備指針(技術・家庭)

技術分野			
機能別分類	整理番号	例 示 品 名	新規
発表・表示用教材	205	材料の技術の標本・資料（新素材、木材、金属、プラスチック等の標本や、材料に関する映像資料など）	△
	206	加工の技術の模型・資料（観察用製品、建築物・木組み模型や、加工に関する映像資料など）	○
	207	生物育成の技術の標本・資料（作物標本や、栽培・飼育等に関する映像資料など）	○
	208	エネルギー変換の技術関係の模型・資料（風力・水力発電機、燃料電池、太陽電池、スターリングエンジン、直流・交流モータ、屋内配線展開板、動力伝達機構模型、発電・各種機器等に関する映像資料など）	△
	209	エネルギー変換の技術関係の分解・観察・分解・組立用機器（電気機器、自転車など）	○
	210	情報の技術関係の模型・資料（コンピュータシステム模型、計算機・情報システム、等に関する映像資料など）	○
	211	情報通信ネットワークの模型・資料（ネットワーク模型、ネットワークに関する映像資料など）	△
	212	計測・制御システムの模型・資料（計測制御システム模型、計測・制御システムに関する映像資料など）	△
	213	教師用工具・機器一式	△
(材料と加工)	216	安全用具等（防護眼鏡、防塵マスク、手袋等）	△
	217	3Dプリンター	○
	218	製図用ソフト	△
	219	加工用工具（木材・金属等の材料に応じた加工用工具（けがき、切断、穴あけ、加熱、組立・接合、塗装など）	△
	220	小型加工機器（ベルトサンダー、卓上ボール盤、卓上帯のこ盤、電動ドライバーなど）	△
	221	固定具（万力、L型クランプなど）	△
	222	測定具（ノギスなど）	
	223	作物栽培関係用具（耕起用具、かん水用具、簡易養液栽培用具など）	△
	224	動物の飼育・水産生物の栽培関係用具（水槽、ゲージ、温度管理用具など）	△
(エネルギー変換)	225	機械関係整備・組み立て用工具（ドライバー、スパナなど）	○
	226	電気関係組立・点検用工具・機器（ハンダごて、ニッパ、ラジオペンチ、回路計など）	○
	227	電気回路、力学的機構実験機器、シミュレーションソフト	○
(情報)	228	ネットワークを利用したコンテンツプログラミング用教材（ネットワークケーブル、ルータ、デジタルカメラ、USBカメラ、デジタルビデオカメラなど）	△
	229	コンテンツ用プログラミング言語	○
	230	計測・制御プログラミング用教材（制御用ロボットなど）	○
	231	計測・制御用プログラミング言語	○

※ 新規に例示した教材に「○」印を、例示内容を一部見直した教材に「△」印を付している

家庭分野			
機能別分類	整理番号	例 示 品 名	新規
発表・表示用教材	232	黒板（栄養黒板、献立黒板など）	
	233	教授用掛図（家族・家庭生活、衣・食・住の生活や文化、消費生活・環境に関するものなど）	△
	234	標本（繊維、基礎縫いなど）	
	235	模型（食品、献立、住居など）	
	236	教師用教具（裁縫用具、栄養指導用具など）	
道具・実習用具教材 （衣生活関連教材）	237	カード教材（食品カード、献立カードなど）	
	238	電気アイロン	
	239	アイロン台	
	240	噴霧器	
	241	電気洗濯機	
	242	手洗い関係用具（洗濯板、たらいなど）	△
（食生活関連教材）	243	ミシン及び付属品	
	244	裁縫板	
	245	裁縫用具セット	
	246	大鏡	
	247	きもの	△
	248	帯	
	249	標本（衣服の再利用）	
	250	コンロ	○
	251	炊事用具セット	
	252	鍋類（両手鍋、片手鍋、フライパン、蒸し器など）	
	253	容器類（しょうゆ・ソース入れ、油入れなど）	△
	254	食器類（和食器、洋食器、はし、スプーン、フォークなど）	
	255	調理用生ゴミ処理機	
	256	電子オーブンレンジ	
	257	ホットプレート	
	258	電気冷凍冷蔵庫	
	259	エアタオル	
	260	I H クッキングヒーター	
	261	電気炊飯器	
	262	上皿自動秤	
	263	計量器	
	264	食品成分検査用具（塩分計、糖度計など）	

実験観察・体験 用教材 (住生活関連 教材)	265	整理用教材（電気掃除機、清掃用具、まな板包丁滅菌庫など）	
	266	家庭生活ロールプレイング用具一式	
	267	保育人形	
	268	遊具	
	269	高齢者疑似体験セット	
	270	ガス検知管、採取器	
	271	照度計	
	272	温湿度計	

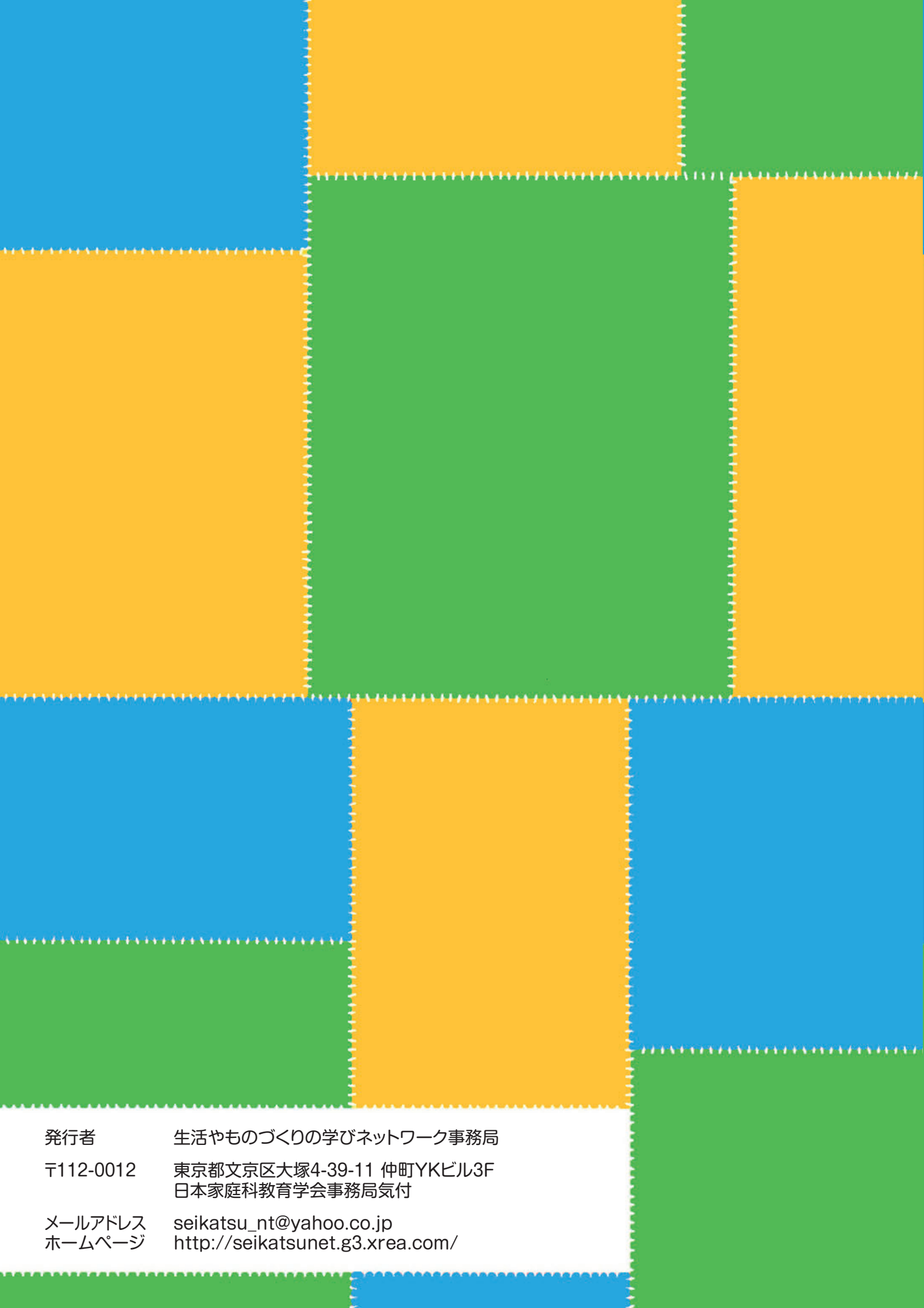
※ 新規に例示した教材に「○」印を、例示内容を一部見直した教材に「△」印を付している

生活やものづくりの学びネットワークで開催してきた総会時の企画と春の学習会のテーマ一覧

年 月 日	テーマ
2010 年 9 月 19 日	現代の子どもに必要な学びとは
2011 年 3 月 26 日	(東日本大震災で中止)
2011 年 9 月 25 日	これからの農業と私たちの生活
2012 年 3 月 31 日	原発事故をどう受け止め、学びの場につなげるのか
2012 年 9 月 30 日	生活やものづくりを大切にする社会へむけて
2013 年 3 月 23 日	大仏拝観とご講話「東大寺の修二会」
2013 年 9 月 29 日	人間がこだわってきたもの
2014 年 3 月 29 日	授業実践から学び、考える
2014 年 9 月 28 日	ていねいに暮らす・・・その思想と姿勢
2015 年 3 月 21 日	綿から糸を紡ぐ～紡績の道具と機械の話・糸紡ぎ体験～
2015 年 9 月 27 日	生活やものづくりの学びを通してどのような資質・能力を育てるか
2016 年 3 月 27 日	ICT を活用した授業事例
2016 年 9 月 25 日	実物、実感、認識—メディア／教育とジェンダーの研究を踏まえて
2017 年 9 月 24 日	学習指導要領と「家庭」、「技術・家庭」
2018 年 3 月 24 日	現代っ子不器用の証明
2018 年 9 月 23 日	新学習指導要領とこれからの高校「家庭」の展開
2019 年 3 月 23 日	18 歳成年消費者を取り巻く取引社会の様相—消費者問題、消費者法の視点から—
2019 年 9 月 23 日	豊かな感性を育む「生活やものづくり」の学び
2020 年 3 月 29 日	(新型コロナ感染症拡大防止で中止)
2020 年 9 月 27 日	「新しい生活様式」を意識した授業づくり—コロナ禍の中の子どもと学校
2021 年 3 月 27 日	コロナ禍における実験・実習の工夫
2021 年 9 月 26 日	技術科と家庭科の「ものづくりの学び」—子どもたちの学びの保障から考える— (予定)

パンフレット一部改訂：赤塚朋子・坪内恭子・小谷教子・中山節子・薩本弥生

2021年8月現在 世話人代表 赤塚朋子



発行者 生活やものづくりの学びネットワーク事務局
〒112-0012 東京都文京区大塚4-39-11 仲町YKビル3F
日本家庭科教育学会事務局気付
メールアドレス seikatsu_nt@yahoo.co.jp
ホームページ <http://seikatsunet.g3.xrea.com/>